

綿菓子機取扱説明書

K-33型

この度は綿菓子製造機をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。



商品名	綿菓子機 K-33型		
セット内容	本体部+フード部(風防カバー)	カラー	本体：黒色、銀色 フード：黄色、オレンジ色
商品サイズ	幅 51.5cm×奥行 51.5cm×高さ 72cm (本体のみ：幅 51.5cm×奥行 51.5cm×高さ 33cm)	重量	12kg
全体サイズ	幅 54.5cm×奥行 55.5cm×高さ 50cm(梱包用ダンボール箱)		
素材・加工	本体部：アルミニウム(タライ部)、スチール フード部：塩化ビニル、スチール		
特記事項	電源：AC100V 50/60HZ	消費電力：800W	日本国製
附属品	計量スプーン		
特長			
①操作が簡単、素人の方でもすぐOK！			
②本体にフードを乗せるだけ、持ち運びも容易。			
③1本わずか15秒ほどで出来上がります。			
④注油の必要がありません。			
⑤設備不要、電源に差し込むだけで稼動可能です			



安全にお使いいただく為に



ご使用前に必ず取扱説明書を読んでください。

また、本説明書をお読みになった方以外のご使用は避けてください。



操作中の釜部は大変高温になります。

やけどの原因になりますので、決して触らないでください。



当社以外での機械の仕様変更等は事故の原因になりますので、決して行わないで下さい。

またそのような場合は当社保証の適用外となります。



地面が濡れている場所には設置しないで下さい。

釜部及び本体のお湯又は水での清掃は漏電及び故障の原因と

お手入れは必ず電源プラグを抜いてから行ってください。

取扱上のご注意

- 綿菓子以外の製造にはご使用にならないで下さい。
- タコ足配線によるご使用は避けて下さい。
- 本体は水平に設置して下さい。
- 製造中はヒーター部分が高温になりますので絶対に手など触れないようにして下さい。
- 製造中はヒーター部分が高速回転しておりますので絶対に手など触れないようにして下さい。
- 変速器のダイヤルは適正に合わせスイッチを「ON」にして下さい。
(変速器の目盛-3以下あるいは+3以上での稼動は故障の原因となりますので絶対にしないで下さい。)
- 使用電源は100V-12A以上のコンセントをご使用下さい。

ご使用方法

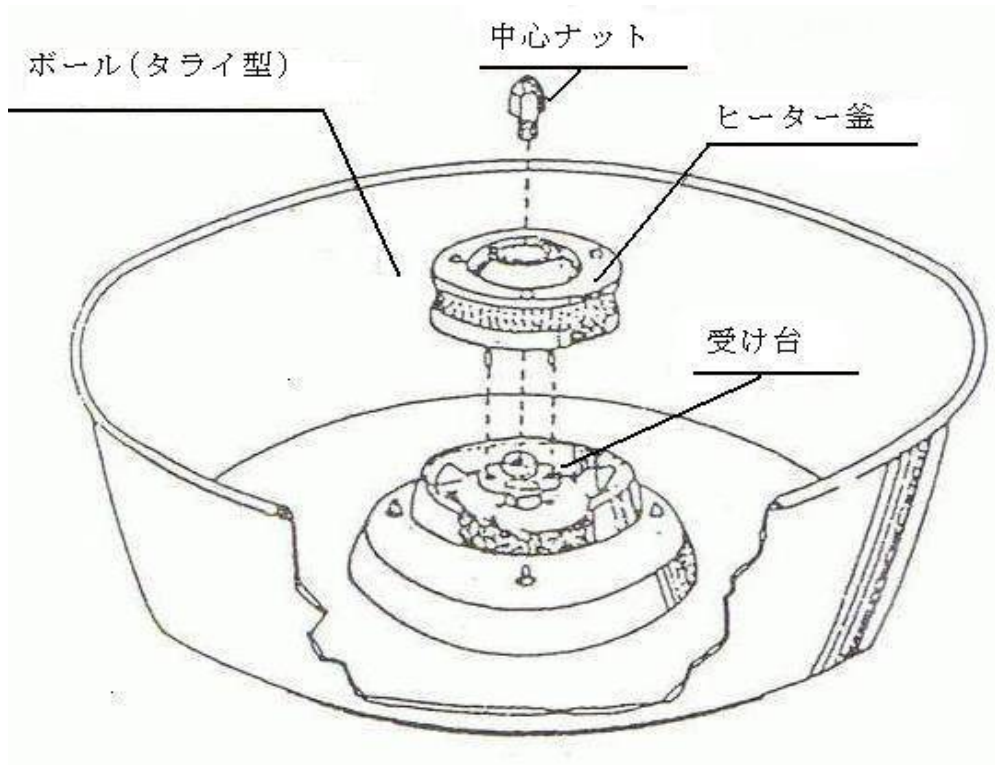
- ① ザラメを入れずに電源スイッチを「ON」にして空運転を約1分間行って下さい。
- ② ヒーター釜内にザラメをステンレススプーン1杯を少しずつ入れます。
(釜が回転していますので、ザラメの飛び散りに注意してください)
- ③ すぐに綿菓子が出てきますので割り箸で巻き取って下さい。
- ④ 綿菓子の製造が終わりましたら空運転を約3～4分行いヒーター釜内のザラメを出して下さい。
※ 割り箸をボール(タライ)の縁にかけ1ヶ所で先端を約45度上向きにしてクルクルと廻しながら巻き取って下さい。
- ⑤ 2回目以降は上記の②、③の順序を繰り返して下さい。
※ ヒーター釜の中はザラメを入れる以外絶対に触れないようにして下さい。ショートの原因になります。

★注意事項★

- ① ヒーター釜内のザラメが片寄りしていると本体が振動することがありますが、一度電源を「OFF」にして完全に停止したのを確認してからヒーター釜の側部を軽く叩いて下さい 正常回転に戻ります。
- ② 変速器ダイヤルは適正の位置にあることを確認して下さい。
綿の出が鈍い時は左方向(低速)へ二目盛程度少しずつ廻して下さい。
ヒーター釜から煙が出る場合は右方向(高速)へ二目盛程度少しずつ廻して下さい。
- ③ 回転釜内のヒーターニクロム線は通常で最高約300時間稼動すると断線することがあります。
またバイキングレストラン等お客様のセルフサービスにてご使用頂く場合は約150時間～200時間の稼動でヒーターニクロム線が断線することがあります。(当社調査による平均値)

回転釜（ヒーター釜）の交換

- ① ヒーター釜の中心の中心ナットをはずす。
- ② ヒーター釜をはずす。
- ③ ヒーター釜下の2本のピンを受け台の穴にセットして下さい。
- ④ 中心ナットを **最後まで確実にしめて** 装着完了です。



お手入れ方法

- ① 電源プラグを抜いて下さい。



- ② ヒーター釜の中心ナットをはずしてヒーター釜をはずしてください。



- ③ ヒーター釜を裏返し、ヒーター釜の高さ8分目位にお湯をはったボール等に浸してください。2分ほどで付着した砂糖が溶けます。

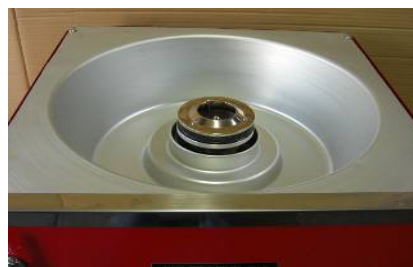


注:ヒーター釜裏側にある配線には水がかからないようにしてください。

- ④ 2分ほど経ちましたらヒーター釜を取り上げ雑巾等で水分を拭き取って下さい。



- ⑤ ヒーター釜を本体に装着します。装着後、空運転を1分ほど行いヒーターに残った水分を全て出してください。



注:水分が残っているとモーターの滑らかな回転を妨げ故障の原因となります。

- ⑥ 本体タライ部およびフード、屋根部は雑巾に水またはぬるま湯を十分に含ませ付着した砂糖を溶かしながら拭き取って下さい。仕上げは乾いた雑巾でもう一度拭き取ってください。



お願い : アルコール、ベンジン、エタノール、磨き粉、アルカリ洗剤、漂白剤等は使用しないで下さい。また化学雑巾はその注意書きに従って使って下さい。また、長期間ご使用されない時はプラグを抜き上記お手入れをしてからヒーター釜部分にポリ袋をかぶせて収納保管してください。

よくあるご質問 Q & A

Q01. 回転釜は廻るが綿菓子が出ない。

A01. ヒーター釜内の熱線が断線している可能性があります。
修理が必要です。お求めになった販売店もしくはメーカーにご連絡下さい。

Q02. 白い煙がでる。

A02. モーターの回転が遅いと思われます。
本体正面の変速器ダイヤルを少しずつ高速へ廻して下さい。
煙が出なくなったらその位置でご使用になって下さい。

A03. スイッチを入れるとヒューズがとぶ。

Q03. 回転釜内に異常があると思われます。
修理が必要ですのでお求めになった販売店もしくはメーカーにご連絡下さい。

Q04. スイッチを入れてもモーターが廻らない。(非常に遅い)

A04. モーターが廻らないあるいは極端に回転が遅い場合は
修理が必要です。お求めになった販売店もしくはメーカーにご連絡下さい。